

『地元食料生産の現状と課題』 ～みゆきポーク～

常盤小学校 田中 泉水

1. はじめに

「北信州みゆきポーク」は飯山市（常盤）だけでなく信州が誇るブランド豚である。だが、今その良質な豚肉が後継者不足という壁に当たり、先行きが不透明な状況にある。その現状と課題を、子どもたちと一緒に調査した。3年生や5年生の社会科、また社会科と連動したふるさと学習の素材としても活用できると考える。



2. 『北信州みゆきポーク』のよさ

- ・「新鮮、安全、高品質をモットーに生産者の顔の見える信頼できる豚肉（パンフレットより抜粋）」
- ・県内各地の食堂やレストランでも食材として使われ高い評価を得ているブランド肉である。
- ・手間ひまをかけ、じっくりと健康的に育てているので、肉の「しまり」「こく」「脂肪の質」が良質である。
- ・ハム、チョリソー、ウィンナー、フランクなどの加工品も展開している。比較的高価であるが、味が良いため贈答品としても喜ばれている。



こだわりの餌

3. 生産の特徴

- ・親豚（種豚）は能力選抜した有料豚を利用している。
- ・乳製品を主体とした人工乳、トウモロコシを小さく砕いたもの、その他良質な穀類など、餌にこだわっている。
- ・奥行きがある豚舎で自由に動き回れるようにしてあり、肉もしまる。



4. 生産者の佐藤さん（常盤）への聞き取り調査（児童と一緒に。以下の項目も同様）

- ・現在生産しているのは2件だけ。・一つの小屋に豚が60匹いる。
- ・牛乳とヨーグルトを混ぜた餌を親にも子にもあげる。
- ・餌の原料はアメリカから輸入するが、知多半島で生産された餌を使っている。餌は専用のトラックで運ばれてくる。信州ポークとみゆきポークは餌が違う。
- ・生まれてから6～7ヶ月で出荷される（生きたままで出荷）。1年間に2000頭出荷される（1000頭はAコープへ。もう1000頭は他の所で使われる）
- ・豚は病気がうつりやすいため、予防接種をする。
- ・豚小屋には豚のストレス解消のためのおもちやもある。
- ・父豚、母豚は年を取って生産ができなくなるとライオンの餌になる。
- ・冬は寒いので、暖房に気を配っている。



佐藤さんご夫婦

Q 「休みはどのくらいあるんですか？」

佐藤さん「ほとんど休みがない。だんなさんと私が二人そろって休むって事はないんだよ。」

Q 「どうしてこんなに大変なのに、がんばって続けるのですか？」

佐藤さん「今もちょうどその事を思っていたのよ。やっぱり、子豚がかわいいからから」「わたしも最初は豚が怖くてね。でも愛情を持って育てているうちに、だんだんかわいくなってきて、それ以来がんばってるんだよ」

Q 「やめようと思ったことはありませんか？」

佐藤さん「何度もあるよ。特に去年（2017年）の10月23日の台風の時、わたしの首くらいまで水がきて、60頭くらい亡くなってしまった。その時は心が折れそうになった。」「でもね、こうやってみんなのような子どもたちが来てくれたりするだけで元気が出るんだよ。それから食べた人がおいしい、と言って喜んでくれると、がんばろうという気持ちになる。」



5. 生産者の春日さん（外様）への聞き取り調査

- ・春日さんと佐藤さんは同級生で今年（2018年）70歳。でも後を継いでくれる人が今のところいない。 ・動物が好きだったからこの仕事を始めた。
- ・餌は佐藤さんと同じ餌を使っている（JAを通して）
- ・毎日餌をあげなければいけないので、休むに休めない。
- ・続けたい気持ちはあるが、年齢には限界がある。

Q 「もし、春日さんや佐藤さんがやめてしまったら、みゆきポークはどうなってしまおうんですか？」

春日さん「もし、やりたいという人がいたとしても、みゆきポークを育てるには資金も技術もあるよ。最低3年くらいの準備が必要なんだよ。最近は「仕方ない」というあきらめの気持ちも出ているね。」



6. やめてしまった方への聞き取り調査

- ・休み、お金、体力が無くなってきて、手伝ってくれていた娘も結婚してしまった。それからほぼ一人で豚を育てたけれども、疲れてしまいやめてしまった。
- ・お産が一番大変だった（出産時間が昼か夜か分からないため）
- ・365日ずっと豚の世話をしなければならぬのがつらい。売り上げの6～7割が餌代になってしまうのも割に合わない。でも元気な子豚が生まれるとうれしい。
- ・続けてくれている人には感謝や応援する気持ちでいっぱい。同じ苦勞をしているから。

7. Aコープ（常盤）店長さんへの聞き取り調査

- ・お店でも、みゆきポークは他の肉より断然売れている。JAにとって大切な主力商品。
- ・少しでも生産者を助けていきたいという思いから、価格は高めに設定している。
- ・生産者の方が少しでも楽ができるように、JAとしても対策を考えていきたい。

8. 学習を終えて、子どもたちの思い

- ・みゆきポークはとてもおいしい。他の豚肉と比べても甘みや旨みがちがう。脂身もおいしい。何とか残したい。県内外の人にみゆきポークのおいしさを伝えたい。
- ・後継者不足を解消するため、下高井農林高校の学生ともつながっていくのはどうか。

9. まとめ

後継者不足はどの農業、伝統産業でも深刻な問題である。しかしそれに携わっている方は熱い気持ちを持って生産に取り組まれている。生産者の思いを直接伺い、子どもと一緒に考えることで、日本の食料生産の現状や課題がより鮮明になると感じた。